



ぼうさいこくたい2024
現地情報共有・連携会議
2024年3月14日（木）



防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）

前年度開催地の状況

神奈川県くらし安全防災局防災部
危機管理防災課 伊藤 正規



国民の防災意識向上のため、防災に関する活動を実践する多様な団体・機関が一堂に集う
防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2023が、関東大震災の震源地・神奈川県で開催

大会概要

テーマ：次の100年への備え ～過去に学び、次世代へつなぐ～

日時：2023年9月17日(日)・18日(月・祝)

開催地：神奈川県 横浜市 横浜国立大学

主催：防災推進国民大会2023実行委員会

(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)

実績：出展数 延べ383団体、396催事 **県内から85団体出展**

(セッション:50、ワークショップ:45、プレゼン:103、ポスターセッション:57、屋外展示:60、
ステージ発表:69、デジタルセッション:12)

現地来場者数 約16,000人 オンライン視聴数 約11,000回



松村大臣



黒岩知事



神奈川県の出展

○ 県主催セッション

誰一人取り残さない防災を目指して

- ・災害時のトイレ問題を考える
- ・様々な目線から避難対策を考える
- ・地域防災を考える

自治体、障害当事者、女性、地域防災等
様々な立場の方が防災を議論

Kanagawa Prefectural Government



○ 防災・危機管理 ブース展示

- ・関東大震災パネル
- ・局の取組紹介
- ・震災を伝承する漫画
(県立津久井高校)





第8回防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2023 in 神奈川 実施体制

会場：横浜国立大学

主催：防災推進国民大会2023実行委員会（内閣府・防災推進国民会議・防災推進協議会）

協力：神奈川県、横浜市 ← 大会実行委員会・事務局には加わず、地元意向反映のための調整・協力が主

大会実行委員会

【事務局】 内閣府防災担当（普及・啓発担当）
受託事業者

テーマ決定、大会企画運営、広報
出展者等公募・審査・決定 等



出展応募

【全国】 参加希望者・団体

省庁、都道府県、市区町村、独立行政法人、公益法人、一般社団法人、小中学校、大学・研究機関、企業、NPO・NGO、学生団体等



出展応募

【地元・神奈川】 参加希望者・団体

市町村、防災会議委員機関、指定地方公共機関、ライフライン事業者、士業連絡協議会、医療、福祉、大学、学校、NPO、災害ボランティア等

大会への出展団体の決定は全国・地元神奈川とも横並びで審査

（地元・県内出展希望者への地元優先枠配分等の配慮はされない）



出展審査基準

1. **大会趣旨と大会テーマ（次の100年への備え～過去に学び、次世代へつなぐ～）に沿った出展内容となっていること**
2. 公益性が高い出展内容であること
3. ダイバーシティやインクルーシブな視点をもった出展内容であること
4. **他セクターとの連携など「つながり」を意識した出展内容であること**

以上4つの観点から審査

神奈川の課題

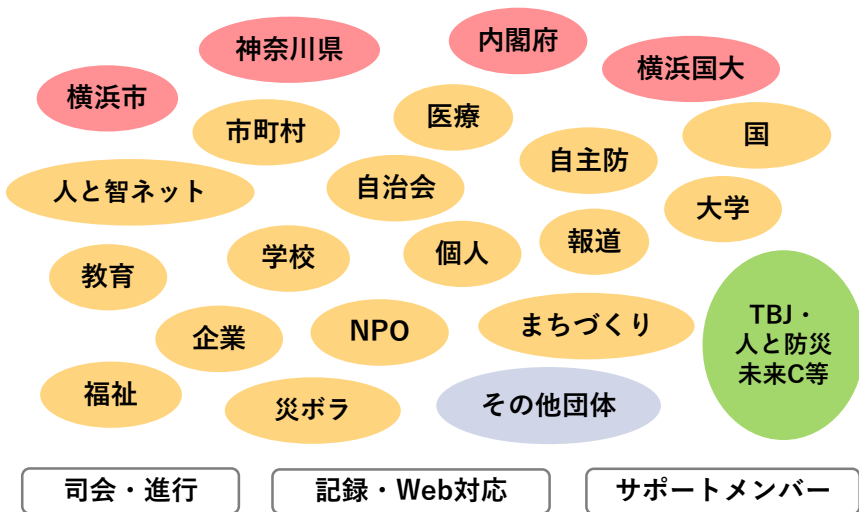
- **災害の被災経験が少ない**
 - 地震は101年前の関東大震災まで遡る
 - 一方、他県の被災地支援の経験は豊富
- **県内連携の核となる団体不在**
 - 県内に災害ボランティア団体やNPO等様々なネットワークは存在する
 - 個々の活動は活発だけど、横の連携・つながりはあるか
- **大会の地元開催の機運醸成**
 - ぼうさいこくたいの県内認知度が低い
 - 地元開催で地元（県民）からの出展が少なかったらどうしよう
 - どこに、誰に声掛けるべきか



現地情報共有・連携会議

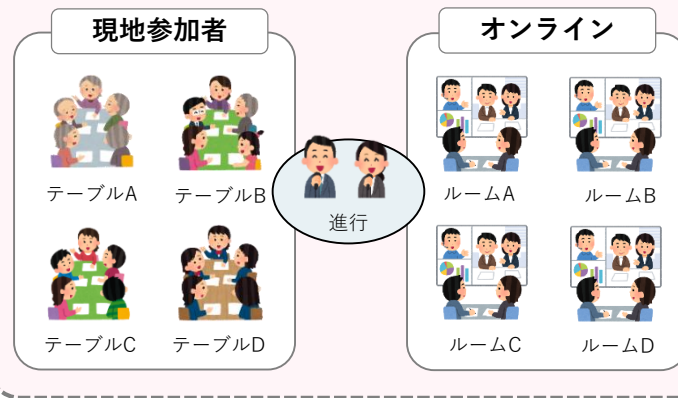
事務局：神奈川県くらし安全防災局 世話人：荻本孝久氏・中川和之氏

【第1部】情報共有



【第2部】連携（コミュニケーション）

（現地参加者同士・オンライン参加者同士の交流を図るアイスブレイクとマッチングの2通りで参加者の取組み紹介、意見交換等の交流実施）



連携（コミュニケーション）の振り返りと総括（次回会議への反映）

参加団体の現地企画の取りまとめ（最終回）

現地企画として2023大会出展に結び付ける



区分	主な機関・分野
県防災会議委員団体	指定地方行政機関、自衛隊、教育、警察、市町村、ライフライン事業者、医療、報道、交通、住宅、福祉、女性、外国人、大学学識経験者 等
指定地方公共機関	交通、医療関係団体、報道、ガス、輸送（県トラック協）
県ライフライン協議会	通信、ライフライン事業者、鉄道、輸送（県バス協・県タクシー協）
県内市町村・消防本部	県内市町村、消防本部
九都県市	埼玉県、千葉県、東京都、千葉市、さいたま市
大規模災害対策士業連絡協議会	弁護士、行政書士、社労士、建築士、税理士、公認会計士、社会福祉士等
医療・災害拠点病院	県内災害拠点病院（35医療機関）、災害協力病院（48医療機関）
福祉関係機関	県社協、県共同募金会
大学・大学院大学・短期大学	県内国公立大学、大学院大学、短期大学
高等学校・中等教育学校・専門学校	県内公立高等学校、中等教育、専門学校
NPO法人・災害ボランティア団体	かながわ県民活動サポートセンター登録団体・災害救援ボランティア団体
地域防災・自主防災組織	国の表彰等受賞団体、県取材団体、コミュニティ助成団体等
その他機関	TEAM防災ジャパン、人と防災未来センター かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク （→同ネットから350機関・個人に声かけ）

県内約1000の団体・個人に会議参加への呼び掛けを実施 



会議開催状況

回数	日程	内容
説明会	R5.2.14	2023大会概要説明、2022開催地から、2022大会出展者経験談、大会への抱負と期待等
第1回	R5.3.23	【第1部】 関東大震災100年事業説明（県事業）、大会概要説明、過去の開催地からメッセージ（4名） 【第2部】 グループワーク 活動紹介（語る・つなぐ） アンケート（テーマ・出展経験・検討状況等）
第2回	R5.4.7	【第1部】 会場・横国大案内、事前アンケート共有（第1回感想・共同出展検討状況・関心テーマ等） 【第2部】 グループワーク 企画検討・ワークシート作成（ 生み出す ）
第3回	R5.4.27	【第1部】 事前アンケート共有（出展検討状況・キーワード等）、 共同出展予定者の企画発表 （6チーム） 【第2部】 フリーコミュニケーション
第4回	R5.8.21	【第1部】 出展者企画内容共有 （オンライン12団体・現地6団体） 【第2部】 フリーコミュニケーション
第5回	R5.11.27	2023大会結果報告、アンケート結果共有、 出展者報告 （オンライン8団体・現地6団体）

応援メッセージ 2023年 関東大震災 100年

防災文化共創“備レτζ”
～災害への備え 知と技と情のひろば～

それぞれの立場の人が、担うべき役割を自覚し、「ぼうさい」のワザを学び、互いの“縁”を深める場

会場で生まれる【防災文化共創マインド】
街にひろがり、国におよび、やがては国境を越える防災文化へと



第4回会議の様子



第5回会議の様子



第1回会議の様子

第2回会議の様子

第3回会議の様子



県内から85企画が出展、うち会議参加団体から**共同14企画**、**単独13企画**が出展

共同出展企画【主たる団体名】

断水でも「生活用水」を作り、避難所の生活環境を良くします

【ユーティリティ・ソリューションズ】

関東大震災から100年を迎え、これからの大震災における防災対策 ～自助・共助・公助連携力の向上を目指します～

【かながわ・よこはま防災ギャザリング】

ぼうさいこくたい子ども会議 2023

【特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ】

防災手話ダンスから学ぶBOSAI

【Goonats ぐーなっつ東京】

「地震体験」と「防災の昔・今・これから」

【平塚市】

首都直下地震サバイバル # 防災手話ダンス「ソング de BOSAI」 # 手ぬぐいからBOSAI

【ご近所 de BOSAI】

消防士キッチンカー

【消防士キッチンカー】

災害7次元ポケット

【神奈川県大規模災害対策士業連絡協議会】

【災害復興まちづくり支援機構（共催）】

防災情報のデジタル化（防災DX）はどう進んでいくのか

【人と防災未来センター】

災害時における授乳アセスメント（聞き取り）を体験しよう

【母と子の育児支援ネットワーク】

防災と人権・多様性を考えよう

【公益社団法人神奈川県社会福祉士会】

神奈川の関東大震災から100年の教訓を未来につなぐ

【オリジナルセッション神奈川Os-7 実行委員会】

マンション防災～自助・共助から地域復興、未来のまちづくりへ～

【よこはまマンション防災ネットワーク】

地震体験車で関東大震災の揺れを体験 親子の防災力アップ ～知って、備える～

【相日防災株式会社】



参加者の声（第5回会議事前アンケートより）

会議参加の感想

とても良かった	6
良かった	13
どちらともいえない	1
良くなかった	0

出展への有用性

とても有用だった	4
有用であった	12
どちらともいえない	4
有用ではなかった	0

有用だった点(主なものを抜粋)

- ・ 出展団体の確認や出展内容を共有することができた。
- ・ 不明な点がある場で確認することができた。
- ・ 様々な団体の方と交流ができ、様々な視点からの展示・講演・セッション等に触れることができた。
- ・ 出展時に他の団体と協力しながら準備が出来、今後に向けてもいい関係性を構築できた。
- ・ 連携会議により他団体との連携をすることができ、当日の集客にもつながった。
- ・ 会議内で出展内容を発表することができ、自信につながった。
- ・ 普段、出会うことがない団体と意見交換することができ、非常にいい機会であった。



他団体との連携や繋がり

深まった	11
どちらともいえない	8
深まらなかった	1



事例(主なものを抜粋)

- お互いに必要資機材がない場合は融通し、協力しあうなど繋がりができた。
- 出展することで周辺地域での様子を把握することができ、意見交換することで、今後の課題を検討することができた。
- 相互に会場を訪問し、互いの取組みをより深く知ることが出来た。
- 今後一緒に活動などをしていく方と出会いました。
- 神奈川オリジナルセッションを開催することができた。
- 神奈川県内の関係者が多く、ゆっくり情報交換ができた。
- 連携会議のグループ毎の話し合いにより、活動や課題の共有だけでなく、実際にスタンプラリーを実現することができた。
- 多くの団体、メディアなどから賛同を得て、出展団体同士の連携は深まりました。



- 『現地情報共有・連携会議』で、団体や個人同士での共同出展に結び付けるため、グループワーク等を実施したことが、県内で活動する団体や個人間の「顔の見える関係」づくりにつながった



大規模災害に備えた県内ネットワークの構築

- 全国から先進的かつ熱心な防災の取組や、新たな知見が紹介され、県民に見て学んでいただく機会を提供できた



県民の地震防災・減災の意識向上に大きく寄与

ぼうさいこくたい2023の開催を通じて得られた知見や成果を、
今後の神奈川の防災・減災対策に活かす

新・神奈川県地震防災戦略の策定



来場者で賑わう会場内





特別企画 未来へ向かって



現地情報共有・連携会議 荻本氏挨拶

